HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Essays on Rent Seeking, Tax Competition, and Private Provision of Public Goods [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	山﨑, 慎吾
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(経済学)
Dissertation Number	甲第12528号
Issue Date	2017-03-23
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66268
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Shingo_Yamazaki_abstract.pdf, 論文内容の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（経済学）　　氏名：山﨑　慎吾

学位論文題名

Essays on Rent Seeking, Tax Competition, and Private Provision of Public Goods

（レントシーキング、租税競争、そして公共財の自発的供給についての研究）

本研究は政府の失敗と市場の失敗に関した研究であり、より具体的には政府の失敗としてレントシーキングに注目し、市場の失敗として租税競争と公共財の自発的供給に注目したものである。公共財や外部性が存在するとき、市場の失敗が発生しパレート効率性が失われてしまう。このような時に政府が状況の改善に取り組むために公共財を供給するなどの活動を行うが、政府の活動もパレート効率性が保証されるものではない。政府が何らかの政策を決める時、利益集団がその政策を自身にとって都合の良い政策に変化させようと活動を行い、政治家や官僚もそれぞれの目的に沿って行動を決めるため、結果的に決まった政策は本来の目的であるパレート効率性の獲得とは異なったものになるという政府の失敗が発生することが多々ある。これらの問題の性質を知ることは改善案を探す上でも非常に重要であるため、本研究ではこれらの問題の性質を分析した。まずはレントシーキングとその支出のサイズについて分析を行った。

この分析では中央政府に対し二つの地方政府がレントシーキング活動を行っている状況を考え、地方政府間の異質性が強いほどレントシーキング活動が激しくなることを示した。ここでのレントシーキング活動は、各地方政府が自地域の重要性や自地域に地方公共財を増加させる利点を中央政府に訴えかけるキャンペーン活動である。このキャンペーン支出には賄賂や接待費用も含むがいずれにせよこれらは無駄使いである。本来は各地方政府が各地域において別の用途に支出すれば直接に地域の住民のためになるのだが、キャンペーン支出はそうではない。しかし、例えばA地域がキャンペーン活動を行っている時にB地域が何もせずただ黙って見ていると、中央政府はA地域のみにとって都合の良い政策を行ってしまう。これはB地域にとっては大きな損失であるために、B地域もキャンペーン活動を行い対抗する必要が生じてしまう。このように各地域はレントシーキング活動を行う必要に迫られているが、このレントシーキング支出(キャンペーン支出)は無駄使いであるために、この無駄使いの大きさがどの程度になってしまうかということを考える必要がある。本研究では、所得税が存在する下で住民の所得に違いのある地域間でのレ

ントシーキング活動を分析し、地域間で所得の差が大きいほどレントシーキング支出も大きくなるという結論を得た。

次に市場の失敗として租税競争に関する分析とその改善案についての分析を行った。自地域(あるいは自国)に資本を呼び込むために資本課税の税率を低くし合う租税競争は各地域(あるいは各国)の税収を減少させるために有害な競争として知られている。この研究はこの租税競争を技術支援によって弱め得ることを証明し、支援を行う側にとっても受ける側にとっても厚生改善になることを証明した。ここで考えている技術支援は公共財の生産技術についての技術支援である。公共財の生産技術の高いH地域と技術の低いL地域を考えた時、H地域はL地域に対して公共財の生産技術についての技術支援を行えるモデルを考えている。例えばこれは日本が中国に対し環境技術を支援するために設備や人員を貸与・派遣するような状況を考えることが出来る。このような技術支援によって支援の受け手は公共財の供給を増やそうとするため税率を高くし、それに応じて支援する側も税率を高くすることが出来るので租税競争を弱めることが出来る。

次に市場の失敗として公共財の自発的供給についての不完備情報ゲームを分析した。ある一定数以上の参加あるいは貢献が得られた時は公共財の供給が成功するという状況を考えている。このような公共財は多くあり、地域の住民5万人中の1千人以上の署名が集まればある条例の制定や改廃についての審議が行われるという状況や、公衆の場で何らかの違法な活動が目撃された時には一人が通報すれば警官が駆けつけてくれる、といったように必要な人数以上の貢献により供給されるタイプの公共財は我々の身近に存在する。このような状況下で、他プレイヤーの貢献コストがわからないという通常の不完備情報ゲームの設定に加え、更にプレイヤー間のコストに相関が存在する状況を考えている。相関が存在しないケースで、自プレイヤーが他のプレイヤーのコストを類推すると、それはただの分布の期待値になり自プレイヤーのコストとの関係は一切なくなる。しかし相関が存在する状況では、自分のコストが高い時、他プレイヤーのコストも高いだろうと考えるようになる。多くの状況では多くの人が後者のように考えることが尤もらしいと思われるため、この分析ではこのようなプレイヤー間のコストに相関のあるケースを考える。また、相関のない不完備情報ゲームと相関のある不完備情報ゲームを考えると、相関のあるケースの方がより一般的で、相関のないケースは相関のあるケースの特殊なケースとして特徴付けられることも示している。このような相関が存在することによって、今まで考えられたことのなかったフリーライドのインセンティブが新たに発生し、従来考えられてきた均衡が当たり前に成り立つものではないことを示し、従来の均衡を得るための条件を考察している。そして従来の均衡が成り立たないケースにおいて、他の均衡が存在することも本研究では示した。

以上、市場や政府の失敗としてレントシーキング、租税競争、公共財の自発的供給について分析した。